

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「立場は新入社員でも、意識は社長になれ！」言い換えると・・・～

この通心（信）でも紹介してきた、「経営の神様」と呼ばれた、松下電器産業（現・パナソニック）の創業者・松下幸之助氏。

「その新人研修での訓話は刺激に満ちていました。」と長年、松下氏から直接薫陶を受け、松下電器と松下政経塾で活躍した上甲晃氏（立志塾塾長）が得た貴重な学びをご紹介します。

経営の神様・松下幸之助氏が新人研修で語ったこと。

別の日の新人研修で、松下幸之助は仕事をする上での心構えを説いた。

それもまた、私の社会人生活の基本的な心構えとなった。

「君らの立場は一新入社員やな。・・・しかし、意識は社長になれ」

新入社員とかサラリーマンだと思って働いていると、意識まで雇われ人、使われ人になってしまう。

だが、社長の意識になると、同じものを見ても景色が違ってくる。

松下電器製のネオンの一角が消えていたとしよう。

一社員の意識だったら消えていることに気づきもしない。万一気づいても「消えてるな」としか思わない。

無関心である。

しかし、社長だったら絶対にこう言う。

「おい、うちのネオンが消えとるぞ。直せ」と。つまり、当事者意識に変わるのだ。

その日以来、私の意識はずっと社長だった。

経営方針発表会の前日には、誰に言われたわけでもないのに、「もし自分が社長だったらどんな方針を発表するか」を考え、それを書いて当日に臨んだ。

そうすると、「なるほどな。社長はいまそんなふう考えとるんか。そういう見方もあったか」と自分との差に気がつく。ただ受け身で社長の話を聞き、ノートに写すだけでは得られない学びである。

あるいは、松下幸之助が現場視察に訪れた時など、大抵の人は恐れ多くて二歩も三歩も後ろに下がるが、私は逆に松下幸之助の後ろにピタッとつき、何を質問するか、どんなことを指摘するか、どこを見ているかを徹底して研究した。

胡麻を播るわけでも何でも無い。その一挙手一投足から経営者としての物の見方、考え方を盗み取ろうと必死だったのである。

月刊『致知』2018年8月号より

どうでしたか？このお話を、学校に置き換えて、今の自分に置き換えて、言い換えていませんか？
そうすると・・・

「立場は生徒でも・・・しかし・・・意識は・・・先生・校長になれ」

クラスなら・・・

「立場は生徒でも・・・しかし・・・意識は・・・担任になれ」

部活動なら・・・

「立場は部員でも・・・しかし・・・意識は・・・部長・キャプテン・顧問・指導者になれ」

ということではないでしょうか？

県立伊丹高校の一員として、無関心ではなく・・・当事者意識で高校生活送ってみませんか？

